

ことば  
あいまいな言葉

しんぶん の きぎょう ねんとう まるべに とりうみわお  
新聞に載った「企業トップの年頭あいさつ」のうち、丸紅の鳥海 巖

しゃちょう はな いっせつ  
社長の話した一節が、おもしろかった。

にほんじん ほんらい がんば おも しぜん がんば  
「日本人は、本来まじめだ。『頑張る』と思わないでも、自然に頑張っ

てしまう。『頑張る』という、かえってプレッシャーを受け、固くなって

じつりょく はつき けっか え おお しゃいんしよ  
実力を発揮できず、はかばかしい結果を得られないことが多い。社員諸

くん がんば くち だ  
君、『頑張る』と口に出すな」。

しゆし とりうみ さくとう げつ こ とうびようせいかつ  
そういった趣旨だ。鳥海さんは昨冬、1カ月を超える闘病生活をし

た。それで、ものを見方を深めることができた、という。「あなた方はプロ

なのだから、自分の仕事をエンジョイしながらやれ」とも説いた。

わたし じぶん たい たにん む がんば  
たしかに私たちは、自分に対しても他人に向かっても、「頑張る」とか

「頑張ろう」「頑張れ」と、しばしば口にする。スポーツ大会の選手宣誓で

「頑張ります」と誓う。「頑張って勉強して、いい成績をとれ」と子供に

ハッパをかける。「頑張って、早く元気になってください」と病気の人を

みま ろうどうくみあい しゅうかい ふ あ  
見舞う。労働組合の集会で、ガンバローとこぶしを振り上げる。

かんが ことば い み あ  
しかし、考えてみると、この言葉の意味合いは、かなりあいまいだ。

どうりょう くるま つか ひと たいけん き むかし  
同僚が、車いすを使っている人の、こんな体験を聞いた。「昔から

あし ふじゆう がんば なんど うら あし ふじ  
『足が不自由でも頑張ってるね』と何度もいわれた。その裏には『足が不自  
ゆう ふこう いしき おも わたし う  
由イコール不幸』という意識があるように思った。私にとっては生まれた  
ときから付き合いしてきた足だし、このままで十分幸せに生きていけるの  
に」。

みみ き こども せんせい がんば かえ こえ  
耳に聞こえない子供に、先生が「頑張れ」と繰り返し声をかけた。その  
わたし がんば がんば  
子は、いった。「私は頑張っている。でも、どこまでやっても、頑張れ、と  
せんせい はげ ていど  
しかいわれない」。先生は励ましたつもりだろうが、なにを、どの程度、ど  
うすればいいのか、はっきりしない。

がんば  
「頑張る」は、どこか、せかせかした感じた。頑張れ」には、ときに  
むしんけい ざんこく ひび  
無神経で残酷な響きがある。

[朝日新聞「天声人語」(1996. 1. 17)より]